

1. 評価結果概要表

作成日

平成 20年 5月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	4071300513		
法人名	有限会社 ティーエスケイ		
事業所名	グループホーム すずらん		
所在地	福岡市城南区樋井川 1丁目7-38 〒814-0153 (電話) 092-873-8354		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年5月16日	評定確定日	平成20年6月16日

【情報提供票より】(平成 20年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 12月 1日						
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	12人				
職員数	12人	常勤	8人	非常勤	4人	常勤換算	5,4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り		
	2階建ての～ 1,2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(300,000円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償却の有無	有	
	無		無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,400円程度	

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

登録人数	12名	男性	3名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	3名	要介護4	3名		
要介護5	名				
要支援1	名				
要支援2	名				
年齢	平均 88歳	最低	74歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	江下内科クリニック / 渡辺通歯科 / 今任クリニック(精神科)		
---------	----------------------------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム出入り口周囲には、手入れの行き届いた花や植物が植えられ心穏やかな空間となっている。運営推進会議で得た情報をもとに、地域の有志が集う会合への参加、地域住民を対象とした講習会の依頼、小学校へ赴いての認知症に対する講話を行うなど事業所の多機能性を生かした取組みが行われている。職員は、認知症ケアの専門知識と技術、及び熱意を持って、入居者一人ひとりの生活リズムを大切に、本人の思いに寄り添ったケアが提供されている。ホーム前庭では、入居者が日向ぼっこをしたり、箒で掃除したりと思いつく関係であることが伺える。自然な形で地域交流が盛んに行われており、今後益々、地域の中心的なホームとなって行くことが期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果については、行政担当者へは直接持参し、運営推進会議時や職員ミーティングを利用して報告を行い、記録の書き方等について協議するなど、質の向上に向けた取組みがある。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価を受けるにあたり、外部評価の項目内容について周知を図り、自己評価内容を確認してもらうなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 民生委員、自治会長、婦人会会長、保育園園長、地域包括支援センター職員、家族等の参加により2ヵ月毎に行われている。運営推進会議時に、公民館で行われる行事について情報を得たり、介護保険関係の内容について質問がでたり、地域住民を対象とした講習会の依頼があるなど、活発な会議の場となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 面会時や懇談会時の説明、月1回のホーム便り、入居者一人ひとりの状況を手紙に書いて毎月郵送したり、その都度の状況に応じた電話連絡などを通じてお知らせや報告を行い、家族の希望や意見等の表出に努めている。出された希望等については、介護計画に反映させるなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ふれあいサロンや地域夏祭りへの参加、地域の方々との日常的な声かけ、挨拶、自治会長の日常的なホーム訪問など、自然な形で地域交流が行われている。小学校児童の見学の受入れや小学校へ赴いての認知症についての講話を行うなど、近隣小学校と連携した取組みがある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	理念の中に「地域の皆さんと共に生きる喜び をわかちあいます。」とあり、地域密着型サー ビスの視点に立った理念が作成されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	各フロアーに墨書きの理念が掲示されてお り、自然と目に入る工夫がある。その時々にお いて、他の職員や管理者と話しあいの場を持 ち、励ましやフォロー、指導等を通じて理念の 実践へ取り組んでいる。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	ふれあいサロンや地域夏祭りへの参加、地域 の方々との日常的な声かけ、挨拶、自治会長の 日常的なホーム訪問など、自然な形での地域交 流が行われている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果については、行政担当者へ直 接持参し、運営推進会議時や職員ミーティ ングを利用して報告を行っている。職員ミー ティングで、記録の書き方等について協議する など、質の向上に向けた取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	運営推進会議時に、公民館で行われる行事に ついて情報を得たり、介護保険関係の内容につ いて質問がでたり、地域住民を対象とした講習 会の依頼があるなど、活発な会議の場となっ ている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センター職員 の参加、及び、現入居者が在宅生活をしてい た頃の行政担当職員の面会等がある。運営推進 会議の議事録を行政指導課に持参し相談やアド バイスを受けるなど、連携への取り組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や 成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要 な人にはそれらを活用できるよう支援し ている	運営推進会議時に、地域包括支援センター職 員より制度についての講演をしていただいたり、 ホーム便りに制度についての説明文を載せ るなどの取り組みがある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につ いて、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	面会時や懇談会時の説明、月1回のホーム便 りの送付、入居者一人ひとりの状況を手紙に書 いて毎月郵送するなど、様々な内容について のお知らせや報告が行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	面会時や懇談会時の説明、その都度の状況に 応じた電話連絡などを通じて、家族の希望や意 見等の表出に努めている。出された希望等につ いては、介護計画に反映させるなどの取組みが ある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	併設施設とホーム間での異動である。辞職す る際は、入居者の心情に配慮した説明や挨拶が 行われている。新しい職員が入職した際は、入 居者に寄り添いコミュニケーションを密に図る など、馴染みの関係づくりへの取り組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用時の何らかの制限は行われていない。本人のやる気を見ながら、パートから正職員へと雇用形態を変えるなどの配慮がある。各種資格取得を目指す職員の希望を優先してシフトを組んだり、園芸の得意な職員は園芸に、おやつ作りが得意な職員はおやつ作りなど、各々の得意分野を發揮できるような取り組みがある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	各種研修を通じての人権学習や行政で行われる講話に交代で参加するなどの取り組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度のミーティング時を利用して、内部研修への取り組みがある。また、昨年の暮れまでは、各種外部研修への参加ができていたが、母体法人の体制変化により今年に入ってから、外部研修への参加ができていない。		体制的な問題もあるかとは思いますが、職員の資質や段階に応じた外部研修への参加の機会を確保し、確実に報告会の実施に、取り組んでほしい。
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの声かけは行っているものの、体制的な問題もあり、職員レベルでの見学・交流はまだ行われていない。		体制的な問題もあるかとは思いますが、他の事業所と協働して、見学や職員の交流を通じて新たな発見や気づきを生む機会を確保し、サービスの質の向上にむけて取り組んでほしい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入院先への面会、本人・家族共々のホーム見学と見学時に入居者の方々と一緒に食事をしていただく等の工夫がある。新しく入居した際には、職員が意識的にコミュニケーションを取るなど不安感を和らげるような取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	女性としての振舞いや人生観、他の入居者との付き合い方など、日常のかかわりの中で学び支えあう関係づくりへの取り組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりを通じて把握した入居者本人の思いや希望はミニカンファレンスノートに記入し、介護計画へ反映させるなどの取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時や懇談会時、電話連絡等を通じて家族の希望等を聞き、日常のかかわりを通じて入居者の思い等を把握している。本人・家族の希望や思い、担当職員によるモニタリングの結果を基にミーティングで協議し、介護計画へ反映させるなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	月1回のミーティング時におけるカンファ レンスにて、入居者の現状に即した協議が行われ ている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	地域包括支援センターの要請による入居、成 年後見入制度利用への支援、小学校へ赴いての 認知症に対する講話を行うなどの柔軟な対応が ある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時に、ホーム協力医が今までのかかりつ け医かを選択することができる。今までのかか りつけ医への受診は家族対応であるが、無理な 場合はホームで対応するなどの支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約書中に、医療行為が必要な時のホームと しての体制が明記されており、説明がある。ア セスメント中に、終末期の意向の確認欄があ り、一部の入居者・家族の意向の把握は行っ ているが、全入居者・家族の意向の確認はこれか らの課題である。		日常のかかわりを通じて、入居者本人の意 向を確認し、家族の意向の確認としてアン ケート方式を採用するなど、本人・家族の意 向の把握に努め、アセスメント内容の充実を 図り、ミーティングにて共有するなど取り組 んでほしい。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者の生活歴を把握し、入居者本人にとっ て最も馴染みのある呼称を用いるなど、入居者 一人ひとりに応じた対応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての一応の流れはあるものの、ご く普通の家庭における生活の流れを重視しての 支援である。生活の流れの中で、入居者のペ ースで自由に過ごしている姿が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	食事は委託先からの配食であるが、つぎわ け、配膳、下膳、テーブル拭き等、その時々 において入居者の出来る事への支援への取 組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるよう に支援している	基本は一日おきの入浴である。ホーム花 壇で取れたハーブを入浴剤として利用する など、心地良い入浴への取り組みがある。 その時々状況に応じてシャワー浴を実 施するなどの支援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	入居者の生活歴を把握し、洗濯物たたみ、ガ ラス拭き、家事手伝いなど、その時々に応じた 支援がある。また、職歴を重視した(学校の先 生だった方に号令をかけてもらう等)役割ごと への支援の取組みがある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	気候の良い日の散歩、ホーム前庭での沐浴、 入居者家族の経営するお店や近隣の店舗への外 出、外食など、機会を捉えての外出への取組み がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。きめ細かな観察 により外出傾向のパターンを把握し、入居者と 一緒に出かけたり、職員同士がお互いの所在確 認のために声をかけあい十分な見守りを行うな どの取組みがある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	併設施設と合同で、年に2回の避難訓練の実 施がある。また、レクリエーションの一環とし て机の下に隠れる、窓を開けるなどの行動を入 居者と一緒に行うなどの工夫がある。運営推進 会議や自治会を通じて地域への働きかけが行わ れている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	食事は委託先からの配食であり、栄養バラ ンスには問題はない。食事摂取・水分摂取の チェックを通して食事量や水分量を把握し、意 識的な声かけなど、水分不足にならない為の支 援がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには自然採光を取り入れ、藤の花を 模した飾りつけやカーネーション、兜など、季 節を感じる飾りつけがほど良くなされている。 リビングの椅子やソファなど、入居者が思い 思いの場所でゆっくりと過ごしている姿が見受 けられた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、TVや箆笥などの使い慣れたもの や、趣味の作品や本、写真、仏壇などの馴染み のものが持ち込まれており、居心地良く過ご す為の工夫がある。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号